



ゆづりは

堺市立図書館だより

第5巻 第3号 (通巻17号)
発行日 平成22年12月10日
編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
電話 072(244)3811
Fax 072(244)3321
URL <http://www.lib-sakai.jp/>

より多くの人に、より使いやすく！

～電子書籍の提供など新サービスを開始～

図書館では平成23年1月8日(土)から、電子書籍提供サービスをはじめとした新たなサービスを開始します。

◆来館していただくなくてもご利用になれるサービス

□電子書籍提供サービス

インターネットにつながるパソコンから、図書館所蔵の電子書籍の利用ができるようになります。貸出や返却のため来館する必要がなく、図書館の閉まっている時間でも貸出ができます。

また、これまで図書館では提供の難しかった資格試験問題集などを提供することで、より多くの方々に図書館を利用していただけます。

□新着図書のお知らせ

興味のあるキーワードをあらかじめ登録していただくと、キーワードが含まれる図書の新着情報をメールでお知らせします。

□蔵書検索予約システム

貸出や予約の状況がリアルタイムで確認できるようになります。また、貸出延長や予約取消、予約カート機能(*1)、マイブックリスト機能(*2)など新たな機能を追加し、より便利に使っていただけます。(携帯電話からも検索、予約ができるようになります。)

*1一度に複数の本を予約できる機能

*2堺市立図書館蔵書検索の情報をリストに登録しておける機能

□E-レファレンス

図書館のホームページ上からレファレンス(所蔵調査、調べもの)の受付を開始します。(レファレンスの一例としてP3 この本で解決！をご覧ください)

◆来館される方へのサービスもさらに充実

中央・中・東・西・南・北・美原の各館に、オンラインデータベースが利用できる端末を設置します。官報や新聞記事の検索等、調べものにお役立てください。

図書館情報システムの更新のため**12月29日(水)～1月7日(金)**市内各図書館は休館となります。インターネット予約や蔵書検索、音声応答サービスも停止します。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

目次

より多くの人に、より使いやすく！	…1
シリーズ堺の人物一休宗純	…2
国民読書年の標語	…2
堺かるた いろはの「か」	…3
この本で解決！	…3
～冬の行事のものしりメモ～	…3
和菓子と本とデパ地下	…3
司書のイチ押し！	…4
『白氏文集』新釈漢文大系	…4
堺市立図書館電話番号一覧	…4



ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとに ゆづりゆづりて 譲り葉の ゆづりしあとに また新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



シリーズ 堺の人物 **いっきゅう とうじゅん**
一休 宗純

一休さんこと一休宗純（1394-1481）は、臨済宗大徳寺派の禅僧で、少なからず堺とも関わりがありました。室町時代の堺は、港町として賑わっており、盛んな交易と商業で活気に満ちていました。

一休は何度も堺を訪れ、禅を説いていました。堺には、日蓮宗、浄土真宗など禅宗以外の宗派に結衆する商人も多くいましたが、一休はこの状況を受容しつつも、兄弟子らの禅の大衆化には批判的でした。禅詩集『狂雲集』に「泉堺衆絶交 二首」という詩を詠んだほど、堺に対しては複雑な印象を持っていたようです。

応仁元年（1467）、応仁の乱の戦火で京都の大徳寺が炎上、晩年の一休は、焼失した大徳寺の伽藍の復興に力を尽くします。この大徳寺復興事業に堺の富商たちの経済的な協力は欠かせませんでした。かつて堺に住むことを固辞した一休でしたが、堺との関係を深めていきます。特に堺の貿易商人、尾和宗臨（おわそうりん）が私財をなげうって資金を調達したことは有名ですが、他にも数多くの堺町衆が資金を提供していたことが、堺市博物館学芸員の矢内一磨氏の著書『一休派の結衆と史的展開の研究』に記されています。

この本には、かたくなに自分の後継者を指名することを拒んだ一休の死後、残された弟子たちがいかにして一休の教えを守り、禅僧僧団を維持していったか詳しく記述されています。



一休宗純画像（朱太刀像）堺市博物館蔵

参考文献

『一休派の結衆と史的展開の研究』

矢内一磨／著 思文閣出版

『堺市史』第2巻 堺市役所

『一休宗純 日本を創った人びと

12』藤井学／著 平凡社

『一休和尚全集第1巻』平野宗浄／

監修 春秋社



国民読書年の標語を発表します！

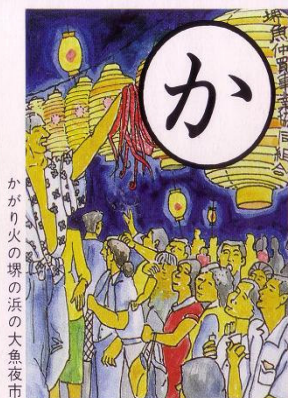
「わくわく、ときどき。だから、わたしは、ほんがすき」（永山 未桜さん作）

「読み出したらとまらない あと1ページ がおわれない」（舟渡 優子さん作）

国民読書年を記念して、図書館では、小・中学生のみなさんに、読書の楽しさを伝える標語を考えてもらったところ、本を読む楽しさ、読書から知識を得る喜びが伝わってくる、素敵な作品がたくさん集まりました。

応募総数1516点のなかから、小学生の部では錦西小学校1年生、永山未桜さん、中学生の部では浜寺南中学校3年生、舟渡優子さんの作品が、それぞれ選ばれました。今後、読書活動啓発のため、広く活用していきます。

かがり火の
堺の浜の
大魚夜市



堺かるた - いろはの「か」

毎年7月31日に大浜公園で行われている大魚夜市は、住吉大社の夏祭りです。みこしが堺宿院頓宮まで渡御（とぎょ）するのに先立ち、地元の漁師が魚を神前に奉納し、その際に魚市が大浜海岸に立ったことに由来し、鎌倉時代に始まったものとされます。昭和49年に中止されましたが、昭和57年に再開され、現在に至っています。今年も約30万人の人出で、おおいに賑わいました。

この本で解決！

～冬の行事のものしりメモ～

*ディケンズのクリスマスの作品を読みたい



『ディケンズ小事典』（研究社出版 1994）p.13に1作目「クリスマス・キャロル」2作目「鐘の音」3作目「炉ばたのこおろぎ」4作目「人生の戦い」5作目「つかれた男」をクリスマス・ブックスとして刊行した、とあります。

堺市の図書館では、1作目から3作目を所蔵しています。「クリスマス・キャロル」はいろんな出版社のものを所蔵しています。「鐘の音」は『クリスマス・ブックス』（筑摩書房 1991）に収録されています。「炉ばたのこおろぎ」は『炉辺のこおろぎ』（近代文芸社 2004）『炉辺のこほろぎ』（岩波書店 1993）を所蔵しています。

*「しめ飾り」につけるモダンな飾りの作り方を教えて

『クリスマス・正月の工作図鑑』（いかだ社 2007）、『ちりめん細工季節のつるし飾り』（雄鶏社 2004）、『クリスマスとお正月飾り』（日本ヴ

ォーグ社 2000）、『私の手作り No.36』等に、参考になりそうなお正月用のリースや飾りの作り方が掲載されています。

ほかに『わら加工の絵本（つくってあそぼう）』（農山漁村文化協会 2006）には、しめ縄の作り方が、わかりやすく記載されています。

*建仁寺で風神の写真を撮った。年賀状に使いたいが縁起の悪いものでないか知りたい

『日本の神仏の辞典』（大修館書店 2001）には風を象徴する神とあり、暴風や風邪との関わりが述べられています。『日本神話事典』（大和書房 1997）の「風の神」の項には災厄や病気を運ぶと同時に生産にかかわる神と考えられていた、とあります。

『日本神祇由来事典』（柏書房 1993）の風神の項には、長寿・子孫繁栄の守護神とあり、仏教でも名誉・福德・子孫繁栄・長寿を与える仏神として崇拝されてきた、とあります。

同書によると、風神を祀る神社には諏訪大社や龍田大社（生駒郡三郷町）などがあるので、問い合わせるのも良いかもしれません。



□◆□和菓子と本とデパ地下□◆□

年末年始のデパートはラッシュアワー並みの大混雑。そんな都心のデパートの食料品売り場で働きだした女の子の視点で描かれた『和菓子のアン』（坂木司 光文社）。同僚は、第一印象と内面がまるで違う個性的な人ばかり。お客さまのワケありげな注文の裏側にいろいろ事情が隠れていて…とミステリー仕立て。お話の舞台裏について知りたい方は、『デパ地下仕掛人』（加園幸男・剣持佳苗 光文社新書）や



『なぜデパ地下には人が集まるのか』（川島蓉子 PHP新書）はいかが。スイーツ流行の仕掛けがよくわかる。『和菓子のアン』を読んで、おいしいもの大好きな主人公につられて和菓子を食べたくなったら、イラストエッセイ『和菓子のこよみ十二ヶ月』（平野恵理子 アスペクト）をどうぞ。巻末に著者のごひいき一覧が付いている。また『和菓子のほん』（中山圭子 文・阿部真由美 絵 福音館書店）は児童書ながら、原材料や作り方も載っている本格的なもの。著者は和菓子資料室の研究員。どちらもフルカラー。

司書のイチ押し！

『白氏文集』新釈漢文大系 岡村 繁／著 明治書院

白氏文集は唐の詩人、白居易（字は楽天 772-846）が自ら編んだ詩文集です。

白居易の詩は、その存命中、既に日本に伝わってきていました。その後、平安貴族の間で流行し、菅原道真の漢詩や紫式部の源氏物語にも強い影響を与えたことは有名です。中でも唐の玄宗皇帝と楊貴妃の恋物語を題材にした「長恨歌」や、左遷された我が身を落魄した琵琶奏者に重ね合わせて作った「琵琶行」がよく知られています。中世、近世を通じて多くの日本人に愛され、現在でも最も読み継がれている漢詩人の一人と言えるでしょう。

ご紹介する『白氏文集』は明治書院が出版する新釈漢文大系というシリーズの一つです。この新釈漢文大系は1960年、『論語』を第1巻として発刊されました。以後『史記』や『孟子』など中国の重要古典を刊行し続け、総数は100冊を超えています。

その特徴は原文、書き下し文、現代語訳が完備されていることです。語釈や余説も付いていることで、漢文初心者から研究者まで利用することができます。それだけに、完成には相当の時間を要し、当初の予定を遥かに超え、半世紀を経た今もなお刊行継続中です。

特に『白氏文集』は詩文数が三千八百を超え、唐代詩文中最多と言われるだけに全16冊を予定しており、現在までに10冊が刊行されているものの、6冊が未完です。実は発刊当初、全10冊の予定だったと、最初に刊行された第3冊の付録「季報」に著者の岡村繁氏が記しています。その後、研究の深化、拡大で予定冊数が増え続けていますので、今後16冊を超える可能性もないとは言えません。

図書館では漢文、漢詩に関する問い合わせは多く、日本人に最も親しまれている白居易の書き下し文と現代語訳が網羅的に調べられる新釈漢文大系『白氏文集』の完成は待ち遠しいところです。

なお、白氏文集は従来、「はくしもんじゅう」と読まれていましたが、実は平安時代以来「はくしぶんじゅう」と読むのが正しく、「もんじゅう」という読みは明治以降のものであるとの説が出されています。詳しくは『源氏物語と漢詩の世界』（日向一雅編 青簡舎）所収の『文集』はくもんじゅう>かくぶんじゅう>か（神鷹徳治著）をお読みください。

関連図書

『漢籍伝来—白楽天の詩歌と日本—』

静永健著 勉誠出版

『白楽天—官と隠のはざまで—』

川合康三著 岩波新書

『白楽天』

アーサー・ウェーリー著

花房英樹訳 みすず書房

『白楽天全詩集』全4巻

白楽天著 佐久節訳註

日本図書センター



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	228-6331